

国立研究開発法人科学技術振興機構 平成28年度 第3回契約監視委員会 議事要旨

開催日時：平成29年2月15日（水）10:00～12:00

開催場所：科学技術振興機構 東京本部別館 2階 会議室A①

出席者：青山委員長、石正委員、井上委員、奥委員、柳澤委員、山口委員
（欠席委員：萩原委員）

説明者：契約部長、契約調整課長、契約業務課長、研究契約室長及び調達要求部署担当者

事務局：上席フェロー（コンプライアンス担当）、監査・法務部長、監査課長（参事役）
監査課課員

○契約監視委員会規則第6条第2項の規定による構成委員の2分の1以上（7名中6名）の出席を得ており、本委員会は成立していることを確認した。

【議事内容】

1. 平成28年度第2回契約監視委員会議事要旨について

JSTより前回の委員会で作された意見、要望（選定基準における具体例の分かりやすい記述、全体像がわかるような説明の工夫、サイエンスプラザ共用部分の総合管理についての管理組合申し入れ）への対応状況について報告があった。

2. 契約状況・自己点検結果について（平成28年度中間とりまとめ）

JSTより報告があり、了承された。なお、主な質疑と応答は以下のとおり。

（委員）資料によれば、資金配分のための契約（複数者応募の競争性のある契約として整理されている研究委託契約等）が金額的には契約全体の大半となっている。また少額随意契約が件数的には契約全体の過半数を占めている。これまでは国の方針等に基づき、1者応札・応募案件等を中心に点検が行われてきたが、今後は更に、資金配分のための契約や少額随意契約についても、本委員会で適切な点検ができるよう、有効な方法等の検討をお願いしたい。

（JST）有効な方法の可能性等を検討し、次回の委員会で報告する。

3. 平成28年度個別契約案件の点検について

○点検候補選定基準

事務局より、点検候補選定基準修正案の説明が行われ了承された。なお、委員長より、基準については固定した内容ではなく、委員会の意見を反映し都度見直していく旨の発言があった。その他、主な質疑と応答は以下のとおり。

(委員) JST 特有の事業に関連した調達の例示表記について、前回委員会の意見を踏まえ今回工夫を試みられているものの、JST 事業の特徴が理解しやすいようにより一般化された表現にするなど更に分かりやすい工夫をお願いする。

(事務局) 了解した。

(委員) 一覧表資料については同じ内容の記述はカテゴライズして記号表記にするなどより見やすい工夫を検討してみたい。

(JST) 了解した。

○個別契約案件

点検候補選定基準により選定された 5 契約案件についての点検が行われた。それぞれの案件では特に問題となる契約はなかった。なお、それぞれの案件に対する主な質疑と応答は以下のとおり。

① 件名：新規課題探索のための研究者ヒアリングおよび市場予測等の調査（化学分野）

(委員) 技術審査基準に ISO20252 の規格を満たすというものがある。この規格は一般的に業者が持っている規格なのか、それともハードルが高いものなのか。

(JST) ISO20252 はマーケティング調査に関する国際規格であるが、この規格を持つ業者は多くなく、ハードルが高い基準である。このため、仕様書に記載した条件を満たしていることを担保しているならば規格を満たしていると判断すると説明会でも話し幅広く応札いただけるように配慮している。

(事務局) 本件は事業推進に資する調査との説明が口頭であったが、事業そのものの概要説明のパワーポイント資料・パンフレット等を配付するなど事業についてもより分かりやすい資料の工夫をとる意見も伺っており、今後検討したい。

② 件名：2017 年発行外国逐次刊行物の購入（1C グループ）

(委員) 一者応札・応募とのことだが、その理由については探っているのか。

(JST) この出版社に関しては特有の事情があるようで、取次書店であればどこでも発注できるというのではなく複雑なことになっていると聞いている。そのことが関係しているのではないか。

(委員) 入札を辞退した業者から理由等をヒアリングしたようだが、どのような内容か。

(JST) 辞退理由として、社内的に準備期間が十分でないこと、業者間の競争が激しく落札の可能性が薄いという内容であった。

(委員) 同様の外国逐次刊行物の購入で競争入札となっている他グループの契約は、一者応札・応募の場合と比較して応札金額を低めにしているということはあるのか。

(JST) 応札金額を低くしている可能性はある。

(委員) 結果的に一者応札になってしまった経緯に関する情報も資料に加え説明があると、競争性が働いているかが明瞭となるので、今後、工夫をお願いする。

- ③ 件名：2017 A A A S Annual Meeting 出展支援業務
(委員) 毎年出展しているとのことであるが、支援業務を落札した業者は異なっているのか。
(JST) その都度、業者は替わっている。グループというか応札する一連の業者の中で、落札者が入れ替わっているという状況である。
(委員) 経年で見ると競争性が保たれており、今年はたまたま一者応札・応募であったということか。
(JST) そのとおり。
(委員) この案件は総合評価落札方式とのことであるが、展示ブースの設営が主たる業務であるのに、どのような観点で業者のノウハウを評価するのか。
(JST) 広報的な観点がある。広報業務は業者の創意工夫やノウハウで成果のレベルが大きく変わることが多々あるので、総合評価落札方式を採用している。
- ④ 件名：日中科学技術交流事業の実施に伴う日本からの渡航者の航空券手配等業務一式
(委員) 入札説明会には四者が参加であるにもかかわらず、一者応札・応募となったことに関してヒアリングではどのような理由があがっているのか。
(JST) 簡単に申し上げると手配が間に合わなかったということ。しかし直前まで2者が入札に参加いただける状況ではあった。
(委員) 落札率が100%になっているが、どうしたらこのような結果となるのか。
(JST) 本件では入札に参加するための参考見積を複数者から取得し、それを参考に予定価格を設定した。航空券と損害保険の手配の内容であるが、過去の類似案件との比較から参考見積の妥当性を評価した。航空券についてはフライト(到着時間)が決まると金額も概ね確定していることから利幅をどれだけ見込むかということになる。業者の参考見積について利幅が圧縮されているということを見極めて予定価格を決めたもので、業者による工夫の余地がほとんどないことから、たまたま100%になったもの。
(委員) 10月の航空券の手配が8月の開札日で行われている。より早く公告し、手配の期間をより長くとれなかったのか。また、往路と復路の時間指定という仕様が厳しいのではないか。
(JST) 受入の中国側の決定が7月であり、到着時間、出発時間についても受入側の要請である。迅速な公告掲示に努めたが、事業実施に間に合わせることに手一杯で競争性を高めるような工程設定の余地があまりなかった。
- ⑤ 件名：2017年 I E L Online の利用
(委員) 本件は競争性のない随意契約であるが、契約金額の価格交渉は行っているのか。
(JST) 調達の作業の早い段階から国内の販売総代理店が一者限りということがわかっているので参考見積を依頼するときから前年度より低くならないかとお願いしている。その結果、前年度よりも業者の手取りが下がった金額を提示して頂いた。契約に際しても更に値引き交渉を行っている。
(委員) 書籍刊行物であれば日本で唯一の代理店を通して買うこともあろうが、電子化され

たのだから出版元の学会から直接データを購入するという選択も可能ではないか。
(JST) 直接電子データ購入の可能性も考えられるが学会によっては販売の手間を嫌がる
ところもあると聞いている。今回の調達に関しては出版元の学会が国内の総代理店一者
にしか卸せないとしているものと認識している。

5. その他

(委員) 個別契約案件の説明の際に、過去の経緯や全体の業界の状況などから推量すること
も必要なので、契約に至る背景、経緯も説明するようしてもらえると議事進行の助け
になると思う。

(JST) 努力していきたい。

事務局より、次回は平成 29 年 6 月下旬頃開催を予定していることが報告された。

配付資料

- 資料 1-1 契約監視委員会・委員名簿
- 資料 1-2 平成 28 年度 第 2 回契約監視委員会 議事要旨
- 資料 1-3 契約監視委員会規則
- 資料 2-1 契約状況・自己点検結果等についてについて (平成 28 年度中間とりまとめ)
- 資料 2-2 点検項目 (自主点検・チェック用)
- 資料 2-3 H 2 7 公益法人に対する契約の点検結果公表
- 資料 3-1 点検候補選定基準修正案
- 資料 3-2 新旧対照表 (点検候補選定基準)
- 資料 4-1 点検候補契約案件一覧 (平成 28 年 9 月ー平成 29 年 1 月 15 日契約、一者応札・応募)
- 資料 4-2 点検候補契約案件一覧 (平成 28 年 9 月ー平成 29 年 1 月 15 日契約、競争性のない
随意契約)
- 資料 5-A 個別契約案件①
- 資料 5-B 個別契約案件②
- 資料 5-C 個別契約案件③
- 資料 5-D 個別契約案件④
- 資料 5-E 個別契約案件⑤